

# 研究はエンジョイ

役に立たないと思われていた物質の穴に着目し、無限の展望を見つけた。8日、ノーベル化学賞に決まった京都大特別教授北川さん(74)は「新しいチャレンジが醍醐味」と研究に打ち込み、成果が広く活用されてきた。果物の鮮度維持に役立つ素材開発から、創薬の概念を変える可能性まで秘める。「研究はエンジョイせなあかん」と教えるを激励し続け、超一流の証明を果たした。

## 受賞決定の電話「勧誘と思った」

ノーベル化学賞を受賞した北川さんは、記者会見で子どもたちに向けてエールを送った。「こんな榮譽を頂き感激している。皆に感謝したい。午後8時ごろ、京都市左京区の大学内の会見場に拍手で迎えられながらスツ姿で現れた。会見の冒頭で口にしたのは、家族や研究仲間への感謝だった。最初は緊張した面持ちで始まったが、受賞決定の電話を取った時の気持ちを記者から問われると「たまたま仕事を片付けていた。何かの勧誘と思い、不機嫌に『突然の冗談めかした答えに会場から笑い声が上がった。自身も表情を緩ませた。会見での質問は、長年の

## 苦勞は「限りなく」■「気体ますます期待」

## 北川さんノーベル賞

新たな多孔性材料を開発し、ノーベル化学賞の受賞が決まった北川さん。発表当初は「うそつき」呼ばわりまでだったが、事実を積み重ねると論文の引用件数が跳ね上がり、一転脚光を浴びることに。記者会見では「受賞で報われたというより、一般に認知されたという意味で非常にうれし」とほかに、化学好きの一面をのぞかせた。研究を始めた当初、物質の分離に使われる材料として一般的だったのはゼライトなどの無機物。軟らかい有機物は使えないというのが常識だった。転機になったのは1989年。当時勤めていた近畿大から学生を連れ、結晶の構造解析に必要な大型計算機を開放していた京大を訪れた時だ。開発した結晶のデータを入力し、計算が終わるまで2〜3時間あった。途中の計算結果を基に構造を予想したがその後、他の研究者がその後の、他の研究者が「研究の苦勞にもおおよそ『限りなく』ある」と振り返った。論文をまとめた1997年、発表した米国で「そんなの本当か」と懐疑的な目を向けられ「狭い部屋で暮らした。いっばいたたかれ、涙か汗か分からないという経験をした。それで『研究で見つけたことな口にし、子どもたちへのメッセージとして』と当時の気持ちを語った。一切揺らさず、信念を貫いてきた。

「ゲミストリー(化学)は個人プレーではなくチームプレーが重要。それがうまく機能した時に進む。かの勧誘と思い、不機嫌に『突然の冗談めかした答えに会場から笑い声が上がった。自身も表情を緩ませた。会見での質問は、長年の

新たな多孔性材料を開発し、ノーベル化学賞の受賞が決まった北川さん。発表当初は「うそつき」呼ばわりまでだったが、事実を積み重ねると論文の引用件数が跳ね上がり、一転脚光を浴びることに。記者会見では「受賞で報われたというより、一般に認知されたという意味で非常にうれし」とほかに、化学好きの一面をのぞかせた。研究を始めた当初、物質の分離に使われる材料として一般的だったのはゼライトなどの無機物。軟らかい有機物は使えないというのが常識だった。転機になったのは1989年。当時勤めていた近畿大から学生を連れ、結晶の構造解析に必要な大型計算機を開放していた京大を訪れた時だ。開発した結晶のデータを入力し、計算が終わるまで2〜3時間あった。途中の計算結果を基に構造を予想したがその後、他の研究者がその後の、他の研究者が「研究の苦勞にもおおよそ『限りなく』ある」と振り返った。論文をまとめた1997年、発表した米国で「そんなの本当か」と懐疑的な目を向けられ「狭い部屋で暮らした。いっばいたたかれ、涙か汗か分からないという経験をした。それで『研究で見つけたことな口にし、子どもたちへのメッセージとして』と当時の気持ちを語った。一切揺らさず、信念を貫いてきた。

「ゲミストリー(化学)は個人プレーではなくチームプレーが重要。それがうまく機能した時に進む。かの勧誘と思い、不機嫌に『突然の冗談めかした答えに会場から笑い声が上がった。自身も表情を緩ませた。会見での質問は、長年の

新たな多孔性材料を開発し、ノーベル化学賞の受賞が決まった北川さん。発表当初は「うそつき」呼ばわりまでだったが、事実を積み重ねると論文の引用件数が跳ね上がり、一転脚光を浴びることに。記者会見では「受賞で報われたというより、一般に認知されたという意味で非常にうれし」とほかに、化学好きの一面をのぞかせた。研究を始めた当初、物質の分離に使われる材料として一般的だったのはゼライトなどの無機物。軟らかい有機物は使えないというのが常識だった。転機になったのは1989年。当時勤めていた近畿大から学生を連れ、結晶の構造解析に必要な大型計算機を開放していた京大を訪れた時だ。開発した結晶のデータを入力し、計算が終わるまで2〜3時間あった。途中の計算結果を基に構造を予想したがその後、他の研究者がその後の、他の研究者が「研究の苦勞にもおおよそ『限りなく』ある」と振り返った。論文をまとめた1997年、発表した米国で「そんなの本当か」と懐疑的な目を向けられ「狭い部屋で暮らした。いっばいたたかれ、涙か汗か分からないという経験をした。それで『研究で見つけたことな口にし、子どもたちへのメッセージとして』と当時の気持ちを語った。一切揺らさず、信念を貫いてきた。

「ゲミストリー(化学)は個人プレーではなくチームプレーが重要。それがうまく機能した時に進む。かの勧誘と思い、不機嫌に『突然の冗談めかした答えに会場から笑い声が上がった。自身も表情を緩ませた。会見での質問は、長年の

▲10月9日 福島民友新聞掲載

### 記事から知り得たこと

---

---

---

---

---

---

---

---

### 調べてわかったこと、考えたこと

---

---

---

---

---

---

---

---

### 疑問に思ったこと、調べてみたいこと

---

---

---

---

---

---

---

---

皆さんは、北川さんのどのような言葉が印象深く、心に残りましたか。

